



院長 須藤 英仁

桜が満開の中、オアシス48号をお届けいたします。皆様変わりはありませんでしょうか？4月は医療法人済恵会にとりまして、平成19年度のスタートの月です。おかげ様で今年は11人の新しい仲間を得ることができました。その中でもっとも大きなことは、石田常博先生が当病院の名誉院長に就任されたことです。石田先生は御存知のように、前国立高崎病院の院長であり、乳がん・甲状腺疾患など内分泌外科での、日本有数の専門家です。これまでも小野聡医師、泉勝医師によって乳腺・甲状腺診療を続けてまいりましたが、今回、さらに大変心強い専門医師が加わったこととなります。日本人女性の30人に1人が乳がんになると言われている時代です。この戦力アップにより、安中地域で乳がんに苦しむ人がいなくなれば大変幸せなことと思います。

おかげさまで当院では順調に看護師、准看護師の育成も進ん

でおり、今年は看護師5名、准看護師5名の新たな戦力を得ることができました。病棟として最も看護力を備えた7対1看護の取得も可能となってまいりました。しかしながら7対1看護は人数だけでなく、看護力も兼ね備える必要があると思います。一人一人の患者さんに合った適切な看護を提供できなければ、人材の無駄遣いです。今号では患者様より寄せられた、苦情等につきましても公表させていただきます。これを踏まえさらに看護力のアップを図りたいと思います。

オアシス47号で新病院建築のことをお知らせ致しましたが、新たな増床、また病院展開のため准看護学生8名、高等看護学生5名がこの春に入学致しました。2年後、3年後には立派な看護師となり皆様のお役に立てるよう、しっかり勉強させていきたいと思えます。皆様是非目を掛けて頂き、気についたことがありましたら、注意して頂きたいと思えます。色々と申しましたが、新しい年度が始まりました。今年もよろしくお願い致します。

当院に寄せられた御意見・苦情について

- ・退院の日時が希望と異なり、家族が大変であった。
- ・注射や処置をしている時、ほかの患者さんと喋っており感じ悪かった。
- ・外来担当医の態度が悪く、診察してもらおうのが情けなくなった。
- ・入院中補聴器が無くなってしまった。そのことを看護師に伝えたが、私は関係ないという態度をとられた。
- ・脳疾患で入院直後、興奮するとすぐに手が出る状態のため点滴などが出来なかった。何とか考え治療するのがプロである。そんなことが出来ないならこんな病院にはかからない。
- ・女性看護師につっけんどんな人がいた。

以上のような大変厳しい御意見を公表させて頂きます。私たちの病院には規範として「私たちの約束」があり、その第一条は“私たちは笑顔で親切な対応を約束します”です。是非もう一度全職員がこの点を見直し、原点に戻った対応を行いたいと思います。

また、病状についての説明が不十分ですと、色々な誤解も生じやすく、気持ちのズレも生じます。医師、看護師をはじめとした治療側と、患者さんと、その家族の気持ちを一致させることは非常に大切なことです。今後も患者さんの病状説明、治療の状況説明には全力を尽くしてまいりま

すので、疑問のある場合は遠慮なく申し出てください。ただし、担当医師不在の場合もあり突然のご希望には、そいかねることもありますので、その点だけはご了承下さい。

私たち病院は今後も医療レベルアップのため、全力を上げて取り組んでまいります。また医療レベルと同時に大事なことは、働く人間の優しい心です。この2点をみがき、最後の御意見の『この病院にはかからない』という気持ちが変わり『この病院にかかってよかった』と思われるようがんばりたいと思います。